

「学の実化」 の時代

山岡順太郎・倭 父子展

2009年4月1日(水) 開館

開館時間 午前10時～午後4時

場 所 関西大学千里山キャンパス 簡文館

休館日 土曜・日曜・祝日・大学が定めた休日



山岡 順太郎氏

山岡 倭氏

「学の実化」の時代

—— 山岡 順太郎・倭 父子展

▼ 山岡順太郎胸像（大学本館前）



▼ 建設中の大学予科校舎（現在の以文館辺り）



▼ 駐日フランス大使ポール・クローテルの講演「フランス語について」



▼ 第1回夏期語学講習会（仏語科）参加者



▼ クラブハウスならびに大運動場開場式



大正十一年（一九二二）六月五日、関西大学は大学令に基づく大学に昇格いたしました。すでに明治三八年（一九〇五）から「関西大学」の名称は使用していたものの、実体は専門学校令による学校であった本学にとつて、大学昇格は悲願でありました。その難局面を乗り切るため、本学は大坂財界の重鎮であった山岡順太郎（一八六六一―一九二八）を総理事に迎えました（のち学長を兼務）。

山岡総理事を先頭に、ときの大学首脳陣が努力を重ねた結果、ついに念願の大学昇格が実現しました。吹田・千里山の地に新しく開設された学舎では、山岡が提唱する「学の実化」のスローガンのもと、新たな施策が次々と展開されていきました。

また、順太郎の長男である倭は、学生たちの良き理解者として物心両面での援助を惜しみませんでした。

運動各部が、他大学に抜きん出て黄金時代を迎える背景には、山岡倭の存在を抜きにして考えることはできません。当時、「東洋一」と称された大グラウンドの建設にも山岡家の大きな協力があつたと伝えられています。

そして、学理と実際の調和を説く「学の実化」は、今や関西大学が進むべき方向を指し示す羅針盤の役割を果たしています。関西大学にとつて「中興の祖」山岡順太郎が、今なお大きな精神的支柱のひとつとなつているのは、こうした所以であります。

このたび、「『学の実化』の時代」と題し、山岡順太郎・倭父子展を開催する運びとなりましたが、この展示で父子の人と業績を感じとっていただければ幸いです。

平成二十二年四月

関西大学年史編纂室

簡文館
年史資料展示室
案内図

関西大学千里山キャンパス 簡文館
阪急千里線「関大前」駅下車、徒歩10分

